

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900140		
法人名	特定非営利活動法人なごみ		
事業所名	グループホームぼらん室根		
所在地	岩手県一関市室根町折壁字兵沢114番地1		
自己評価作成日	平成28年10月5日	評価結果市町村受理日	平成29年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>開所し6年が経過しましたが、職員は毎日の申し送りで介護理念を唱和し、意識の共有を図っています。また、利用者様一人ひとりを尊重し、その方らしい日常生活が送れるよう、気づきやチームワークを大切に支援させていただいています。</p> <p>利用者様は活動的な方が多く、散歩やドライブ、地域の行事等に積極的に参加し、職員とともに地域の一人として、地域に溶け込み交流を深めています。</p> <p>法人は職員のキャリア形成のため、資格取得や外部研修の参加を積極的に促すなど、職員個々のスキルアップを目指しています。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2015_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0390900140-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	広域財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19番1号 岩手県福祉総合相談センター3F
訪問調査日	平成28年11月10日

<p>「笑顔を大切に、温かいホーム」の理念を開設時から職員のネームプレートに掲げ、日々のミーティング時に唱和することで、入居者を中心に寄り添ったケアに心掛けている。また、法人の方針であるキャリアアップの啓発(ケアマネジャー資格保持者が3名)により、職員全員のモチベーションの向上や、質の高いケアが展開されている。利用者家族とのコミュニケーションを大切に、折に触れ、連絡を取り合っている。地域との「もちつ、もたれつ」(洗濯ものをに入れてくれたり等々)の繋がりが深まってきており、より良い関係が出来ている。ホーム内に職員の顔写真と、廊下に食事やおやつの写真も掲示しており、家族や親戚等の来訪者への気配りも行われている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		取り組みの成果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念をネームプレートの裏面に明示し毎朝の小ミーティングや月例ミーティングの際に唱和することで、職員全員で意識し実践に努めている。	設立当時から継続して、法人の介護理念と職員で考えたホーム独自の理念(笑顔を大切に温かいホーム)を、ネームプレートの裏に入れて、ミーティング時に唱和している。全職員寄り添ったケアを心がけていることで、利用者と職員の一体となった雰囲気が感じられる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃の挨拶を始め、地域の道路清掃や行事へ積極的に参加している。また、地域のボランティアの方が踊り等の慰問に来て下さる機会も増えている。	事業所からの発信や自治会町の協力もあり、様々な地域の行事や、地区内の清掃活動にも積極的に参加している。近所の方々数名にも運営推進委員になって頂いており、避難訓練やホーム行事への積極的な協力をもらい、活発な交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイト養成研修を受講した職員が認知症サポーター養成講座を開催しており、認知症の理解を深めていただくための活動をしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回開催している。ホームの利用状況や活動報告を行い、意見交換の場となっている。また、定期的に警察や消防の方からもご助言をいただいている。	消防・警察・行政・住民代表(役職の方)・近所の方(5~6名)の協力を頂き、多様な構成員となっている。事業所の現状報告や防災関連、また行政からの情報提供等、多面的な意見交換の場となっている。近所の方々には、身近に交流して頂き、何かと協力を頂くことが多々ある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険や生活保護の仕組みについて、不明な点などの相談を行っている。また、市町村担当者とは電話だけでなく、顔が見える関係作りを心がけている。	行政から介護相談員が定期的に来訪し、制度利用や、介護保険等のアドバイスを頂いている。また、事業所としてキャラバンメイト養成にも尽力し、行政の方々向け講座を行うこともある。自然災害時には、(行政より)安否確認の連絡も頂いている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぼらん室根

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の施錠を行わないだけでなく、利用者様の気持ちを思いやり、その都度納得できるよう寄り添った声がけ等を行っている。また、ご家族様のご協力もいただきながら対応している。	利用者の日常の中から、利用者の不意の外出の素振りがあった際には、その目的を検討し、時には家族とも連絡し合い、解決することもある。普段は、職員がそっと見守り、利用者の安全確保に努めている。拘束の手引き・マニュアル等は常に閲覧できるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修へ参加しており、研修報告や勉強会の内部研修も行っている。普段から職員間で意識の統一を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者虐待防止マニュアルを参照しながら、ミーティングや勉強会を通し、身体的虐待だけでなく精神的虐待にはどのようなものがあるか再確認し言葉使いにも注意している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者は契約締結時に毎回丁寧な説明を行い理解を得られるよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の来訪時や運営推進会議等の際、近況報告と合わせ意見と要望を聞くよう心がけている。また、ご家族様が要望等を伝えやすいような雰囲気作りにも努めている。	利用者ごとの担当職員が中心となり、利用者の顔写真入りの最近の様子や予定をお便り(通信)の形で、家族に送付し、状況をお伝えしている。毎月の精算時に来訪した際に、対話することを心がけている。特に意見は頂いていないが、「今度の通院時には付き添いをお願いしたい」等の要望等はある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議や毎月のミーティングは代表者を含めた意見交換の場となっている。早急に対応が必要な提案や意見は管理者を通じて代表者に報告している。	毎月の全体会議は、活発な意見交換の場となっている。それ以外にも、常に意見、提案は受け付けており、出来る限り反映するように努力している。職員からの提案として、「新人の指導をもう少ししたい」「駐車場を整備したい」「居室外の段差をなくしたい」「柵をつけたい」等々が挙がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	子育て中の女性職員の時間短縮や介護等、様々な条件の受け入れ等の話し合いを持つなど職場環境の整備や職員個々の意欲向上に対し、積極的に支援している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぼらん室根

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員個々の適性に合わせ、外部の研修への積極的な参加を促している。職員がスキルアップを目指せるよう資格取得の費用や研修代等、全額負担している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県認知症高齢者グループホーム協会の定例会や市が主催する外部研修等へ参加できる機会を設け、同業者と交流を促進している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の段階から要望や心配事の把握、ホーム案内を丁寧に対応することで、利用時に安心してサービスを受けることができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時より悩みや不安なことを申込書に記入していただき、職員間で情報を共有している。また、どのような支援を望まれているのか入居から30日間の介護サービス書の説明と共に意向を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様のその時々状態を見極め、ご家族様の意向を確認しながら、必要に応じたサービスの提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、一人ひとりの時間を大切にしながら、利用者様の好む活動、趣味、出来ることを活かせるよう努めている。調理や洗濯物干し、たたみ物等、個々の役割が定着している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話、お便り等で近況報告を行っている。また、外出や外泊支援にもご協力いただき、関係の継続に努めている。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の馴染みの関係や思い出の場所等、入居後も関係が継続するよう支援している。また、ご家族様のご協力をいただき、かかりつけ医や美容院等を変更せず継続して利用している。	兄弟、親戚、友人、元会社の同僚、美容院等々馴染みの人たちとの繋がりが途切れない様に、電話や通信(お便り等)まで気配りして支援している。年賀状出しや、編み物の毛糸の買い出し、お寺参り、自宅訪問など、支援している。また、男性利用者への散髪は、家族に連絡して対応して頂いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールの席は性格や相性を考慮し、定期的に変更している。全員で参加できる行事やドライブ、外出等を企画し利用者様同士が支え合えるような支援を心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が入院された場合においても、可能な限り面会し、ご本人様の様子を確認するとともにご家族様の不安な気持ちに寄り添い、今後の必要な手続き等を助言している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で希望や要望等を記録に記入し、情報を共有し職員間で把握している。意思表示をあまりされない方は、表情や行動を観察し利用者様本位に検討している。	利用者の言葉や、言葉にしづらい思い等を職員が汲み取り、生活記録に記録し、ミーティングを通じて共有するように心がけている。また、希望や意向をそのまま表せるような環境づくり(接遇や会話など)を大事にし、寄り添ったケアに心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用前の面談にて、自宅での生活の様子等の情報の収集はもとより、利用時にはご家族様よりフェイスシートを記入していただき生活歴や趣味等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録や排泄チェック表は時系列で記入しており、一日24時間の流れを把握できるようにしている。また、ミーティング等で情報を共有している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぼらん室根

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティングや担当制によるアセスメント、モニタリングで様々な意見をくみ取り、介護計画に反映させている。ご本人様やご家族様、主治医の意向、意見も把握するよう努めている。	本人、家族、地域との関わりの中から、色々な情報を収集し、カンファレンスをして、プラン担当者が作成している。特に、利用者ごとの担当職員は、本人や家族の情報を聞き取りし、反映させるようにしている。必要に応じて、看護師や医師の助言も、プラン変更を活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録は24時間の生活の流れが記入できるようになっている。また、ご本人様がお話されたことについても、ありのまま記入することで体調等の変化や気づき等に繋がっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の際には、ご家族様の予定も考慮しながら予約を入れたり、職員が代行する等、その時々ニーズに柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が安心して暮らせるよう、地域の方々との関わりを大切にしている。防災訓練への呼びかけやボランティアを積極的に受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居後も変更せず、継続しているが、利用者様やご家族様の希望や意向を受け適切な医療を受けられるよう努めている。受診した際は記録に残し、状態を把握している。	入居前からのかかりつけ医を継続している。医師への上申書(ホーム独自のもの)を作成し、(医師へ)情報提供している。利用者全員が定期的に受診し、家族の都合によっては職員が付き添うこともある。そのような場合は、受診と受薬の内容について家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師へ気づきや状態変化を相談、報告し健康管理に努めている。また、適切な受診ができるよう連絡体制を整えている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぼらん室根

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された際には、可能な限り面会へ行き、ご家族様や医療機関より情報提供を受け、退院後も安心して生活できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの指針についてご説明し、ご本人様、ご家族様の意向を確認している。また、身体状況の変化に伴い、他施設への紹介等も行い状況変化に備えている。	重度化が進んできている時は、段階ごとに、家族の意向を確認しながら、情報や状況の共有を図り、事業所で出来ることを説明し、他の介護施設等への住み替えの事なども含め話し合い、確認し合っている。職員は、看取り介護に関する研修を受講し、共有している。救急対応マニュアルが作成してある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備え、定期的に勉強会を行い、職員間で確認、実践に活かしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練では、実際に暗くなってからの夜間を想定した避難誘導訓練を行っている。また、災害時に備えマニュアルを更新し勉強会で意識統一を図っている。	年2回の避難訓練は、消防署立ち合いで実施している。地域の運営推進委員の方4～5名の参加・協力を頂いている。非常食や高所落下物も点検済みで、避難経路、場所も共有している。法人全体の災害マニュアルも用意している。緊急通報装置があり、瞬時に管理者や主任に、連絡がいくような仕組みになっている。発電機はない。	近年、想定外の自然災害が発生しており、火災と震災だけでなく、河川の氾濫なども含め、行政で用意したハザードマップを確認し、危険区域の範囲を把握すると共に、現在のマニュアルの再検討が必要と思われる。運営推進会議などを活用し、(消防を含め)話し合われることに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、常に相手の立場に立った声かけをする心がけている。また、排泄時にはさりげなく誘導する等、プライバシーを保つよう対応している。	「笑顔を大切に温かいホーム」の理念に沿ったケアを心がけており、尊厳とプライバシーを意識し、利用者と職員の一体感を感じる。利用者個々の性格の長所や短所を職員は把握して、短所は、さりげなくフォローし、長所を褒めることで自信に繋げ、尊厳とプライバシー保護の原点を守ることを、全員で共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者様が思いや希望を話せるよう、個別の時間を大切にし、環境作りに努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぼらん室根

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日をどのように過ごすのか、毎日小ミーティングで話し合い、利用者様の意向を反映できるよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃より整容に気を配っている。馴染みの美容室への外出等、ご家族様のご協力をいただきながら支援している。また、女性利用者様は外出時や行事の際、お化粧している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様のリクエストを取り入れながら、献立を作成している。また、食事の下ごしらえや盛り付け、食材の買い物も利用者様と一緒に出かけ、旬の食材を取り入れている。	当日の食事メニューを利用者に書いてもらい、食堂に掲示している。週に2回は、買い出しに出かけている。利用者も同行することが楽しみの一つになっている。献立は、法人の栄養士が考え、多少アレンジして作っている。食事は職員も一緒にし、和やかな雰囲気である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量ともに毎食チェックしている。摂取量が少ない方には、好みの物を提供したり、こまめに対応するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声がけ、介助を行っている。必要に応じ、義歯の調整や歯科受診をして口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間の排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握している。声がけや誘導が必要な方、それぞれに合わせたパットの使用などの支援を行っている。	排泄の自立を常に意識し、チェック表を基にパターンを把握し、必要に応じて誘導している。このことにより、自立度が高くなり、夜間の排泄は、声掛けや誘導で、全員、自立となっている。日々の水分量の目安を定め、利用者個々の健康管理も徹底している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、便周期を把握している。便秘予防として、毎朝の牛乳、食物繊維の多い食材の提供、散歩や軽体操等のレク活動を行っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぼらん室根

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気分に合わせて、利用者様の希望に沿った入浴支援をしている。時間帯についても、意向を聞きながら臨機応変に対応している。	土・日を含め、1日おきの入浴としているが、体調や気分を大事に意向を確認して、入浴支援をしている。バイタルの状況等で入れない方は、足浴などに変更することもある。家庭的な風呂場であり、機械(リフト)浴は、現在必要な方はなく、全員一般浴にて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の室温調整や換気、清潔な寝具の提供等を行っている。安心して休息していただけるようその都度、意見を聞きながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や医師、薬剤師からの注意点については受診記録に記載している。また、申し送り等で周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合ったレク活動や軽作業等を行っていただいている。散歩やドライブ、外食、季節の行事を企画し気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	当日の体調や天候を見ながら、利用者様が希望される自宅や外食、かつての職場等へ外出している。	外の空気を吸って頂くことを心がけ、年間の外出計画のほかに、天気状況により、近くの散歩・買い物・ドライブ等の機会を多くしている。時には、外食や自宅への外出も行い、家族の協力も頂くこともある。行き先は利用者の希望や職員の案で決めることが多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は基本的にホームで管理しているが、外出や買い物の際には自由に使えるよう支援している。また、ご本人様の強い希望にて本人管理している方もいらっしゃる。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぼらん室根

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時だけでなく、こちらからも利用者様に声がけている。ご家族様や親戚の方からも定期的に電話や手紙が届いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を保つよう心がけている。また、季節感を大切にし、利用者様と一緒に作成したちぎり絵等を展示している。	玄関からの廊下づたいに、職員の顔写真と、日頃の食事、おやつの写真が掲示しており、更に職員と利用者の合作(紅葉風景)の大きなちぎり絵(地域文化祭出品予定)が2~3点が飾られている。リビングには、ソファを置き、角の畳の部屋にはコタツを用意し、広い食堂から田・畑・山の四季の景色を眺めることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに居心地よく過ごしていただけるよう、ホールや玄関付近にソファを配置している。また和室で過ごされる方もいらっしゃる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具や布団等、好みの物を自由に持ち込んでいただいている。レク活動で作成した物を掲示したり、その方らしい居室となるよう担当者が工夫している。	ベッド・洗面台・クローゼットが備えられている。ベッドを使用せず、布団の上げ敷きの生活を希望し、布団を敷いて就寝している方もいる。居室には、ご主人の写真や造花・敷物・小箆箆などを持ってきており、利用者や担当職員が、居心地を考えて、配置の工夫をしていることが伺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、浴室、トイレには表示を行い、声がけや誘導をしている。障害物を置かないようにし、安全で自立した生活が送れるよう配慮している。		